

～ 東邦大学医療センター大橋病院は日本赤十字社医療センターの  
多機関共同研究に参加します ～

1. 研究課題名

区西南部における脳卒中 S 選定システムの妥当性検証(多施設共同後方視的観察研究)

2. 試料・情報

(1) 利用目的

本研究は、救急現場における「脳卒中 S」選定システム<sup>1)</sup>の臨床的妥当性を解明することを目的とする。プレホスピタル・トリアージの精度が、病院到着後の血流再開までの時間に与える影響を多角的に分析する。以下の3点を中核に据える。

1. 救急隊による「脳卒中 S」選定の診断精度(感度・特異度)の検証

救急隊が S 選定アルゴリズムを用いて抽出した症例のうち、最終診断において機械的血栓回収療法の適応となる「主幹動脈閉塞」であった割合、および非該当例における「主幹動脈閉塞」混入率(偽陰性率)を明らかにする。

2. 治療適応判断と実施治療(rt-PA、機械的血栓回収療法)の乖離分析

S 施設<sup>2)</sup>へ搬送された症例の治療プロセスを追跡し、時間的限界等を現場選定の妥当性と併せて分析する。

3. 選定漏れ(偽陰性)症例の特定

本来機械的血栓回収療法適応であったが S 選定されなかった症例の流入経路(直接来院、脳卒中 A 施設<sup>3)</sup>からの二次搬送、他目的救急等)を特定し、地域連携における損失を定量化する。

1) 「脳卒中 S」選定システム：東京都が、重症の脳卒中患者を速やかに受け入れ、専門的な検査や治療を行うことができる医療機関を、一定の基準に基づいて選定する仕組み

2) S 施設：脳梗塞の超急性期において適応となる機械的血栓回収療法の治療が可能な医療機関

3) A 施設：脳梗塞の超急性期において適応となる血栓溶解剤 t-PA(組織型プラスミノゲン・アクチベーター)の治療が可能な医療機関

## (2) 利用項目、提供方法

本研究は、2025 年 3 月から 2026 年 3 月の間に、機械的血栓回収療法を受けられた方の診療記録を利用して行う。利用を開始するのは、本研究が承認された日以降とする。

本研究は多機関共同研究（研究代表者：釘崎愛理 所属：日本赤十字社医療センター脳神経外科）であり、当センターと対象施設（区西南部医療圏における脳卒中急性期医療を担う主要施設）から提供された診療記録から得られた情報を利用する。その際、個人を識別できる情報は削除する。

## (3) 利用する者の範囲

日本赤十字社医療センター 脳神経外科 釘崎愛理（研究責任者）、および本共同研究に参加している区西南部医療圏における脳卒中急性期医療を担う主要施設の下記参画施設

東邦大学医療センター大橋病院 林 盛人 脳神経外科・講師

国家公務員共済組合連合会東京共済病院 渡邊 玲 脳神経外科・部長

国立病院機構東京医療センター 林 拓郎 脳神経外科・部長

国家公務員共済組合連合会三宿病院 小野 健一郎 脳卒中センター・部長

東京都立広尾病院 吉田 賢作 脳神経外科・部長

公立学校共済組合関東中央病院 清本 政 脳神経外科・医長

JR 東京総合病院 安達 淳一 脳神経外科・部長

## (4) 管理責任を有する者の名称

日本赤十字社医療センター

## 3. 参加を希望されない場合等

本研究への参加を希望されない場合や本研究参加についてのご相談がある場合は、以下へご連絡ください。本研究への参加を希望されない場合でも、不利益を被ることはありません。

4. 問い合わせ先

日本赤十字社医療センター

〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22

TEL : 03-3400-1311 FAX : 03-3409-1604

担当 : 脳神経外科 釘崎愛理 入江是明

【東邦大学医療センター大橋病院 問い合わせ先】

住所 : 東京都目黒区大橋 2-22-36

Tel : 03-3468-1251 (内線 : 7434)

担当者 : 脳神経外科 講師 林 盛人

東邦大学医療センター大橋病院は共同研究機関として、当院における該当患者さんの診療録(カルテ)情報を、代表機関である日本赤十字社医療センターへ提供します。その際、患者さんのお名前・住所など、個人を特定できる情報は削除して提供します。